

まなびの広場  
稲進会  
教室通信

彩色いろいろ

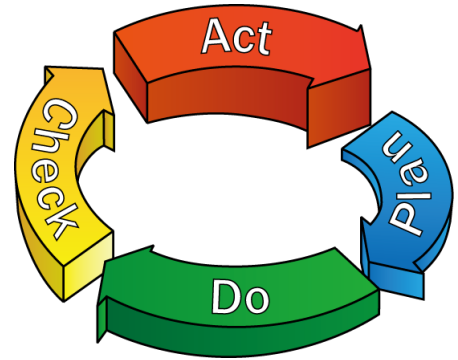
『評価』に耐える心

『PDCA サイクル』

物事を良い方向に向かわせるための考え方の一つです。

- PLAN…計画
- DO…行動
- CHECK…評価
- ACT…改善

これを回転し続けることです。



『夢をかなえるゾウ』の著者水野敬也氏は、以前、この本がベストセラーとなった理由を語られていました。

「とにかく人に読んでもらうこと。その人の意見を聞き直していく。それを何度となく繰り返した。それだけの本です」

まさに PDCA サイクルを実践されています。でもこれだけでは終わらないのです。ベストセラーはそんな簡単に生まれません。

「でもね、人は他人に評価されることが嫌なんです。特に悪い点を指摘されることに耐えるのは大変です」とも話されていました。

あらゆることを改善、改良、向上…、させる効果的な方法は、客観的な評価をもとに「どうしたら良くなるのか？」を考え、実行に移していくことです。

まなびの広場も稲進会も「自分で考える力」を身につけて欲しいという願いをもとに指導を行っています。ですがこれは他の人の意見を聞いてはいけないということではありません。世の中にはたくさんの情報が流れています。たくさんの情報を参考にし、最終決断を自分自身でする、これが「自分で考える力」です。

ですから、ちょっと耳の痛いような言葉も、自分にとってプラスになるものとして受け止められるそんな力強さ、人としての大きさを身につけて欲しいなと思っています。

社会人一年目の時に、上司に言われた言葉を思い出します。誰かに何かを指摘された時、「『助言』ととるか『苦言』ととるかでお前のこれからは大きく変わる」です。

助言とすれば全てを成長にしていいいことばかり、苦言とすればストレスの材料になるだけです。ね。

## 教室の風景

### 「未来」は…

最近、高齢者の交通事故のニュースと共にテレビで取り上げられることが多くなった『自動運転車』。実用化されるのももう目前でしょうか。先日ニュースの中で、自動運転車の研究をしている現場の映像が流れていました。そこには、レゴで作られた 20 台程の小さな車が、黒い線で囲まれた狭い空間を走り回り、学習しながら互いに接触しないようになっていくというものでした。学習システムはないのですが、センサーで枠から出ないようにしたり、他の車に反応したりする様は、先月行われたジュニアクラスのロボット騎馬戦と同じなのではないかと思いました。何より、プログラムを微調整するために、パソコンに向かう研究者の姿は、生徒達と全く変わりませんでした。



2015 年 10 月 22 日は、1989 年に公開された「バックトゥー・ザ・フューチャー PART2」で、主人公がタイムマシンに乗って未来の自分に会いに行くまさにその日でした。当時描かれた「未来」の「今」には、指紋認証や 3D 映画、タブレット式のパソコンなど現在では当たり前のものが多数登場します。映画を見ていた頃は夢のような世界が実現されていることに、改めて感動です（残金ながら映画には自動運転車は登場しませんでした）。

ドラえもんがタイムマシンに乗ってきたのは 22 世紀。そこに描かれている「未来」が「今」になった時、どのくらいの秘密道具や街の姿が実現されているか楽しみです。そして、そこに教室でブロックを組み立てている生徒達が関わっていたらと思うとワクワクします。

インストラクター 宇賀神薫美

## 11月作品紹介 『ハロウィン特集！』

ハロウィンにちなんだ作品がたくさん教室に登場しました。

